

昭和18年5月1日（土）

安田（古城駅附近）氏より五百円国債の請求あり。日曜に持行くことを約して、各方面物色するも残なし。大いに当惑す。恰も此日、安田氏の娘来局に付き、ミワさんより事情話置きたり。切手請求千余円、葉書一万、五銭切手一万等払込に余行き、受取にミワさんも来らる。小母車出来、四円修理料かかる。松本時寶堂より葉書二千枚請求は、販りにミワさんに配達して貰ふ。

昭和18年5月2日（日）

諸報告物片付けに忙し。巖、妻の実家に一緒に赴きし由。ミワさん母堂と、公園地の藤見に弁当持参にて行かる。飯は味付け、而して夕食に余も頂く。安田氏宅に断り旁々、次期売出しまで保留を懇示する積もりなりしを、藤見を変更出来なかったらし。理屈をつけて安田氏に向かわざりし。

昭和18年5月3日（月）

6時発汽車にて古城に行かる。大貞まで求め、徒歩引返すと云ふ。矢張り気が咎めたらしく、諒解を求める必要ありとて行かる。7時半朝飯前販らる。恰度上り列車に間に合ひし由なり。巖此朝、餅10程持来る。里入りの土産らし。街路掃除して逢はざりし。ミワさんも古城行き留守。母堂受取り置かる。朝飯の際、焼かずに頂く。昨、黒砂糖配給。之を附けて頂く。

昭和18年5月4日（火）

曇り。朝4時頃より降雨、明け方歇む。其の後曇天。切手請求現金、余行き、受取りミワさんも行かる。8千枚余

持来る。小母車は重量物入るとき、無理になる恐れあるを以てなり。岩糯米にて萩の餅を造り、黄粉を附けて十個程持来る。更にミワさん信者某宅に招待を受けて、販りに強飯（糯米）を持来られ、何れも夕食に頂く。急に暖かになり綿入れを脱す。坊や裾を捲り上げ、昼間は独りで小用するも夜は未だし。

昭和18年5月5日（水）

夜半降雨せしらし。夜来暖かく、坊や飛出し蒲団に寝ぬ。便所に行きたるに蚊が襲撃す。此日晴れたり曇ったり。切手請求は余行き、受取にはミワさん行かる。坊や留守居す。夜、味飯頂く。

昭和18年5月6日（木）

初め曇り、後晴れ。切手請求せず。気温漸く高く、夕方水にて肌を拭ふて休む。徴兵検査若者、多数竹屋に泊まる。頃日二階に、坊や位の子供が廊下を駆足で走る様、往々坊やと間違ふ。聞く処に依れば、出征兵士の妻女が子供連れにて女中に住込みたるものの由。此の頃より、撞球屋の前まで掃除することとせり。約40分を費やす。6時より開始す。毎晩、夏蜜柑を坊やに遣る。大きければ三切れを残し、小なれば皆食ふ。此夕うどんを馳走さる。朝飯は昨残りの味飯を頂く。

昭和18年5月7日（金）

晴れ。今朝未明に二階の若者起床。6時前に出立せし模様なり。気温著しく上昇。蚊漸く多く、事務室にも居る。富士紡工女の小包返送さる。小林主任を招き、将来を戒めて小包を渡す。

昭和18年5月8日（土）

防空演習。モンペイ軍も裏で稽古し、更に街路に出でて演習数回。10時、下関無集配局見学団一行、部会長に引率せられて女子四名臨局。一時間見て、公園地をミワさんの案内で見て帰る。別府に赴く。余午後、坊を連れ外出。富士紡と扇状高女の間を、富士紡の拡張工事を覗きつつ中殿に出て、鉄道踏切筋より駅前に出て、40分間を費やして帰る。切手請求せず。焼き附くような熱さを感じず。

昭和18年5月9日（日）

消耗品請求調書作成。午後、藤見に公園に坊を連れ行く。お猿の為に大根葉を持行く。藤の花盛り少時眺めて、余は先に戻る。ミワさん小母車に坊を乗せて、後より戻る。坊遊ぶ。

昭和18年5月10日（月）

消耗品の調書は此日まで持越し、午後発送す。此の日味飯炊き、午後2時頃より坊を小母車に入れ持参さる。二重山盛り、家内皆食べられたことと思ふ。此日、切手類及び印紙も一緒に請求す。葉書六千あり。葉書は余持来る。

昭和18年5月11日（火）

晴れ。5月9日、門宮係員野田某より同便区分中、当局より歳入徴収官宛て封書に、10円切手三、1円二、30銭2銭3銭各一、封入あるを発見。送付越せるに付き、中津局問合せたるも、該当の切手遺志の形跡なき由。更に

最近10円切手を請求の向き、取調べ通知方依頼し、椎田、八屋、長洲に対し照会す。巖午後來たり。困ったこと出来たと云ふ。夫婦関係の破綻かと思ひ眉を顰む。秀樹の母、男子分娩。肥立ち悪く、秀樹を世話することは病勢昂進の原因を為す。一先ず引取り呉れと云ふ。今自分は妻に打ち明ける勇氣なし。秀樹が犠牲となって、自分等の生活を保証し呉れと云ふにあり。余は巖の気持ちを知り、此の場合福岡に行き相談せよと薦む。蓖棒（ひぼう?）な咄なり。

昭和18年5月12日（水）

此の夜10時、突如警戒警報発令。其の前理髪屋に行き、ミワさんに模様を見て貰ふ時に、消燈せんとするところに行き、特に頼みて待たせたりとのことにて、大急ぎにて駆け付く。此日切手請求、払込は余行き、受取はミワさん行かる。葉書なき為、余行かざりし。愛国パン、毎日四個づつ求め来らる。

昭和18年5月13日（木）

2時過ぎ起床。4時半、昨夕味飯残り頂く。巖の来たりしは、昨夕味飯炊きたるも、昨日午後なりし。5時20分発にて出発。此度の局長会議は大分教育会館に変更さる。逋信局長代理、長田貯蓄部長、江口郵務課長、北島第二職員、川口業務、河野第二調理、各係長臨監。9時開会。柳浦副会長、議長席に就き午後2時終了。余は2時41分発にて販途に就く。正午の休みは旧城趾等を見る。弁当は各自携帯のこととなり居る為、賑やかな通りを散歩し、次いで旧城趾に足を運ぶ。爰に田所氏と会す。此の朝降雨。会場まで降り続く。後霽れる。但し曇天。

昭和18年5月14日（金）

此の朝巖来たり。妻に咄せしと云ふ。夫れだけ聞けば、あとは聞かぬとも可。巖に自分の御都合に依り、昨否今、是の態度は遺憾極まりなす旨通告せり。此日も愛国パン求め来らる。夕飯後、胡麻味噌作る。

昭和18年5月15日（土）

曇り。坊や昼寝す。メリケン粉、堅パンの油煎り、蒲鉾二本、愛国パン十数ヶ、うどん三把、鉄道小荷物にて発送す。郵便にては重量超過、五匁（キロ）ありし。坊やの洋服写真出来上がる。2時半より神様に坊やを連れ行かる。岩尾さん別府行き、2時頃飯らる。此日福岡に飯る積もりなりしも、急に中止。其の代わり品物贈る。3時頃より降雨。

昭和18年5月16日（日）

昨夕方近くより降雨。夜を徹して小雨降り続く。今朝来、依然歇まず。警戒警報は昨日午後解除さる。坊やと呼べば「はい」と返事し、大分物が分かりし如し。併し、兎もすれば小便間に合わずして失敬することあり。昼寝せず。夜8時頃寝る。昨八重子、悦子連れて立ち寄る。愛国パン三ヶ遣る。森田さん重曹と焼き明礬（みょうばん）、塩、酢を入れ、パンを蒸され坊やに下さる。本日ミワさん調製さる。幾つか森田さんに送らる。夕餉に其のパンを頂く。砂糖経済にせし為め、甘味に乏しき憾みあるも、余には結構に頂けたり。猶昨、道子宛て封緘葉書発送、50円為替券封入。これは三谷行き旅費の積もりなりし。戦時勤勉手当等、請求を洩らしたること判明。急

ぎ作成発送せり。福岡に行かざりしは神の啓示なりけん。

昭和18年5月17日（月）

降雨後の街路は掃除に都合が悪かりし。切手類請求書は作成したるも、資金不足の為見合わす。函場より請求多し。窓口亦、百円を超過せり。双方で三百円を出づ。文書の整理始む。

昭和18年5月18日（火）

8時より出征軍人祈願祭。貴船神社に参拝。次いで大貞八幡社に徒歩集合。ミワさん母堂と汽車にて行かれ2時頃帰らる。切手請求第1次三千五百円を割ること五百円、計九百円程請求。午前11時半受取に出発。八千枚葉書、前後に担ひ来る。終日曇り。道子より返信来る。三谷へは行かぬらし。武藤と相談の結果とす。色々不平不満を駢（なら）べられあり。淳、福日赤坊会に3等入選の由。

昭和18年5月19日（水）

曇り、終日霽れ間を見ず。影浦より印紙120円請求あり。立替え請求書提出。午後1時過ぎ受取は余行く。此の間妻女待居る。浅蜷貝を食べ、右上3枚目の歯に挟まり多少痛む。三谷に葉書で事情を通告、先方の意見を聴くこととせり。返事に依り善処す。巖夫妻来たり。小母車持って行く。秀樹を連れ来るらし。八重子は玄関先より家の中に入らず。坊や岩尾さんと駅にて少時遊ばせて貰ふ。夜、可なり寒し。

昭和18年5月20日（木）

曇り。正午頃一時霽れたることあり。ミワさん保険募集に

外出。坊や行囊に入りて、揺籃代わりに動かして貰ふことを強要して皆を困らす。余坊を貴船神社に連れ行き、一時間余遊ばせて販りは負ふて戻る。昨夜割合早く寝り、今朝8時近く迄寝て居る。午後一時昼寝す。5時まで寝る。夜湯に行く。昨日も湯に行き、夏蜜柑一個を食べたるが、10時頃神様詣でより湯に行き販る。余り販宅遅き故、湯まで迎えに行く。漸く販り支度の処なり。坊や負はれて販る。風邪気味にて悪寒あり。販ると直ぐ寝る。

昭和18年5月21日（金）

晴れ。寒さを感じ火をとりて貰ふ。浅蜷貝を食べ歯に挟まり、楊子にて除去に努めた為、歯齦を刺戟したらしく、上顎裏側腫脹し大いに困（くる）しむ。併し余の行動は何等の制限を受けざりき。

昭和18年5月22日（土）

晴れ。森田さん3時過ぎ帰省。5時頃書留引受け、終便に結束を期したるに、六号便は廃止されたる由。主事を喚びて談判し、取締り来たりて持行く。此朝火鉢に火をとりて貰ふ。此の火は次の日の夕方まで持堪ふ。坊や前田さん抱かれ、同氏の家に連れらる。途中栄町局より電話さる。7時頃前田さんに抱かれ戻る。湯に行く。

昭和18年5月23日（日）

曇り。午後より遂に雨となる。ミワさん余の寝巻、及び運動シャツ等洗濯さる。パン造らる。ミワさん坊を負ふて横田氏を訪はれ、玉葱等持参さる。砂鉄研究の九大博士が遂に鍛錬に努力し、遂に成功せしものの由。森田さん8時頃販る。巖、八重子悦子連れ昨帰省し、今日販る時

間に、巖迎えに来たりたる由。次の汽車にて販り来たり。巖の結婚写真を持来す。森田さんに米粉、外に何か貰ふ(団子)。今日牛乳二本貰ふ。

昭和18年5月24日(月)

昨日来の降雨、終夜降り続く。黎明に至り寧ろ猛烈なりし。11時頃漸く歇む。午後再び降り出せしも夕方歇む。切手類40銭を除き他は充実す。請求せず。夕飯4時頃出来。昨横田の家の前に立寄り、うどんを一円頒与して貰ふ。其のうどんに調味料を加え調理。9時半寢床。坊や10時を過ぐるも寢らず。余早く就床しても何の役に立たず、当惑せり。押入に入りて小便す。小便したと教ふ。

昭和18年5月25日(火)

曇り。影浦より千円印紙請求。ミワさんに払込み貰ふ。午後零時半まで受取に行かねばならぬこととて、零時30分出発。然るに阿部氏居らず。検査出来ぬと云ふので一旦販り、寺町中津劇場角まで来たりし時、阿部氏の自転車に遭ひ引返し公園地の自然の雑木園を訪ふ。零時25分販局。約一時間費す。10日程前、貴船神社境内にて、小倉局員に依り坊やを撮影の写真持来らる。此日、米注文す。切手資金より立替えたり。道(さすが)に切手請求なし。昨道子より葉書。日本発送電株式会社より株主の出席通知あり。24日総会とありて、委任状を発送するにしても時機を逸し中止せり。道子保険局に出るらし。臨時筆耕出来上り高、計算らし。岡田染四郎より蒲団袋を返せと云って来たが、借りた覚えもなく、十年昔のこととて、其の後数回福岡を訪ねて来たり一度も貸せしと話せしことなかりしに、何たることか、寢耳に水とは此の事な



らん。返事出し置く。

昭和18年5月26日（水）

雨上がりの街路なるも、略（ほぼ）乾きたるを以て、簡単に掃除したり。40銭切手一枚もなかりしを以て請求したり。然るに11時過ぎ、森久より印紙百円15枚の臨時請求あり。正午払込み。然るに豊浦より葉書九千枚請求あり。11時半、残五千請求に来たりたるを以て、一緒に中津に連行頒与せり。その為、余の持振り分一万より半数を減ずることとなりたり。午後5時夕食。坊や湯に行く。例に依り夏蜜柑一ヶ平らぐ。給料交付。曇天に終わる。

昭和18年5月27日（木）

朝来雨。海軍記念日。冬メリヤスを脱ぎ夏着に換ふ。昨午後、八重子秀樹を小母車に乗せ蕨を持来る。八重子に馴れ、傍らを離れると後を追ふと云ふ。洗濯も目前に置きてやると。坊やよりも8ヶ月遅生まれなるが、既に歩行する由。牛乳3合ずつ飲み居りし由なるも、二度煮して普通の飯を呉れ居ると。此の日朝、期間内据置貯金払戻認可ありたるに、ミワさんに名義人を訪はしめ、保線区、駅、其の他保険募集に活動さる。朝は六百円の貯金払戻しは、中津局の定額貯金に組換ふと云ふ。当局に五百円、中津局に五百円とし承諾せしむ。されば定額、積立、保険等、此日は大分賑やかに成果挙がる。坊や物が大分解るようになれり。一昨日、太鼓を穴瀬さんより貰ひ来たりしも、一日にして破壊し去り、昨夜繕補してやりたるも忽ち破りたり。夜10時坊寝らず。消燈したる儘ミワさん睡る。坊うつ伏しになりたる儘眠る。

昭和18年5月28日（金）

夜来雨、黎明に及ぶ。冷氣あり。11時頃横田母堂来たり。四日市過員を生じたる由。中津局長を訪ひ採否を質す。何時でも採ってやるとのことに、これから四日市に行き、話を進むべき由咄さる。余、推薦文を起案して持たせて遣る。坊や珍客に欣び、玩具を前に駢（なら）ぶ。ミワさん砂糖屋より堅パン19一袋求め、砂糖一人分を頒けて貰って来らる。余は砂糖のことは謂ふなど注意せしものなり。午後より霽れ、牛豚肉の配給に行列作る。

昭和18年5月29日（土）

昨夕食に豚肉と豆腐の馳走あり。坊や午前中に寝る。其の代わり、夜10時過ぎまで起きて居る。ミワさん駅に連れ行き、10時迄、約2時間遊ばさる。豆腐や固麺麴の油揚げ等は胃腸を障害したらしく、夜半腹痛下痢あり。梅エキス遣る。柳浦長臨局。部会長問題出づ。

昭和18年5月30日（日）

午前7時朝食。7時30分、会長宅前集合。竹槍2本持来たり、一本は森田さん分らし。余出席、公園地に集合。銃創術型の実演、其の他の訓練あり。参加者、悉く指導実演。最後に紋平組に及ぶ。10時過ぎ閉会。ミワさん坊やを連れ横田へ行かる。パン造らる。栄町長より深抹長死去の通知あり。パンは砂糖入り、甘味不十分ながら前日に比し美味なり。横田に行かる。

昭和18年5月31日（月）

深抹行きは多忙の為中止。栄町長も上津の姉、病氣見舞に行かれ深抹中止。曇り、雨模様。坊や風邪発熱あり。

別に其の為、活動を遮らるる傾向は見出さず。胃腸の障碍もあるらし。梅エキスを与ふ。天候不順。快晴少し。アツツ島の皇軍、全部悲愴なる突撃を開始し全滅の報導あり。対手は二万、皇軍二千余。最後の突撃参加は百余名、他は負傷自決す。